

滿洲工業異常の發達と

一、認のないが最後の論者に對しては證及するの要を得ず
 二、證あるに對しては證及するの要を得ず
 三、證あるに對しては證及するの要を得ず
 四、證あるに對しては證及するの要を得ず
 五、證あるに對しては證及するの要を得ず
 六、證あるに對しては證及するの要を得ず
 七、證あるに對しては證及するの要を得ず
 八、證あるに對しては證及するの要を得ず
 九、證あるに對しては證及するの要を得ず
 十、證あるに對しては證及するの要を得ず

して特許を賜ふべし。又、
 何等の保護を加へざるを以
 廣漠たる資源地も到底採取し
 ずる時期の到来すべきかは明
 して決して無限とは稱し難き


お

性度は
外科 内科
肝門病 内痔
小兒

何屋前
三〇三
内院





豐次清勇

土場としての特効



界各國
効力を
實驗成
何等の
在り
模造品
のにお

自
社




三月の生妻夫

何屋前
三〇三
内院





豐次清勇

土場としての特効



界各國
効力を
實驗成
何等の
在り
模造品
のにお

自
社



内科 小兒科 呼吸器
胃腸病
京坂本町五丁目（桜荷座前）

院長	副院長	副院長
醫學士	醫學士	醫學士
齊小齊	川豐	次清雲

國に在りては同一の方式に依り有名なバ
グデビス社が北米及英國所在の工場に於て
腸疾患者に對する唯一の特効

25 Grams
TAKA-DIASTASE
 ゼーラスアヂカゼ
 糖質分解素
 Manufactured by the Takeda Chemical Co. Ltd.
 and imported by
DR. JOSEPH TAKAMURA
 MANUFACTURED BY TAKEDA
 社有式保共三

近し歐米各地に之を供給せり

カチアス・スターゼは已に十數ヶ年來世界各國に於て醫學に依り實驗的に使用せられ其効力を認められたるものなり

藥としての最大要素は多數醫學者の實驗成功効用の論理と合致し使用者をして何等の害を拂ふ必要ならしむる者なるに在り

此の實驗を以て世界各國を疾ふ疾出するに類似藥品を製造するに當り其効力及び副作用の價値あるものにお

東京室町 三共株式會社

館の火災に於て

國技館の火災に際し第四號は斯る大鐵傘館の倒壊火中にも不拘極めて安全なる

文に接したり
見るも如何に國末金庫の功
著なるかを謹告仕候

京市日本橋區通四丁目
國末金庫店
電話本局三八五番
振替東京一九九〇番

[illegible]

10	11	12	13
----	----	----	----

に其間くるもの、自己の出産準備費
百五十圓計を要す、其他二十三
圓控して、計費は百八十圓の
隻、要するといふ。此の計費は、

[illegible]

蘇峰

十一日、**盧山の面**に出る。

漢を、添加せざる可らざるか

此邊の沿道は、田嶋小山岡皇
極尊榮にて、威風凛々なく故に
に似たり。特に在郷家の構造や、
其の庭に於ける私家の模様や、血
は恰も日本に在る心地せり。
之より大なる支那人のみ。
氣候は東京に比すれば、聊か温暖
と思ふ程にて、越山を掩うたる雲
最も、次第に捲き来り、今や處
山の面目を、當面に眺むること一
秋天洗出碧嶺阿。双銀香爐火第
新。儂比二東坡。稍覺意。嵐山。目
るに相合し、手に乗じて遊べ
に出峯海に棲じ、九江の市街
物とし、宛刻通りに、荷舟九に
込めり。而して南江に、荷
の都合にて午後一時過ぎ、出港
九江南昌の間、於ける二晝夜を
に益にし、且つ愉快に、終絶す
望せしめたな、快に九江に於て
る官吏諸君の好意に頼る。予は
一諸君に向つて、銘謝する能は
るを憚り。
大正六年一月廿七日午前七時
留津丸客

朝鮮十景の變遷
(三) 八木英三郎
(四) 堀江 謙

[illegible][illegible]

國に於ては、地を掘り、土を掘り下すに於て、
 其時、地は、一面に同様の古墳を掘
 る場合には、地の存せしことを掘
 りて可なりと雖も、且、掘の方に
 ては、其有無に疑ふ可し、此
 本の古墳は、支那の如く、地下に穿
 たるは、殆んど二に過ぎず、
 普通に地上に都を設け、遺骸を
 に藏めて土を覆ひし例、多く
 掘のみの場合には、更に地上に
 土を築き、其六七分目の箇所、
 掘り、故に其に、例上日本、
 は從來古墳に就て、地を掘る
 たりしなり、然るに近年、
 此地には、柳を斫り、土を
 掘り、其を、
 子健日君、關野直其等、頻
 り、
 地を掘り、土を掘り下すに於て、
 其時、地は、一面に同様の古墳を掘
 る場合には、地の存せしことを掘
 りて可なりと雖も、且、掘の方に
 ては、其有無に疑ふ可し、此
 本の古墳は、支那の如く、地下に穿
 たるは、殆んど二に過ぎず、
 普通に地上に都を設け、遺骸を
 に藏めて土を覆ひし例、多く
 掘のみの場合には、更に地上に
 土を築き、其六七分目の箇所、
 掘り、故に其に、例上日本、
 は從來古墳に就て、地を掘る
 たりしなり、然るに近年、

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

[illegible]

大坂霞の家主人

その望を達げるにも、生きて居ては爲らない。死、死、彼女の採る道は死の一途のみである。謂ふに難して一言の吾地を戻くのも、彼女を殺す一法の他にない。
「いで」と助左衛門は立ち上つた。先刻には思はれ邪魔が入つたが、今度こそは思ふよに成し遂げて彼女の深い血を見ねばならない。天はまだ明けて無い。綴の雨戸を繰り明けると、四方の星が珠を垂いたように輝いて、春の如く、麗の隅から、そよ／＼と感さ吹く。恰ど好い」と助左衛門は思つた。好い事に行くのではないから、心持は逡巡ふようにも見えたが、手を持たず、阿茶女を雨戸を

〇挿續 未著の爲め休載
 やがて火桶の一斗を取つて、庭傳
 ひに乾薪房へ行つた。程にはばん
 やりと灯が點つて、兩戸が一校開
 いて居る。
 『初瀬どの、初瀬どの』
 『三言發をかけたが答へがない
 つて』
 『初瀬どの』と云ひながら程を叩
 くと殘燈一基の如に點るばかり
 で人らしい影が無い。驚いて
 『初瀬舞臺、初瀬どの』と聲を限
 りに呼んだが、松吹く風の音のみ
 が頻々と響き渡つて、誰さうる者
 も無かつた。
 前へ出られるが、何の處で清
 に遇はれるか、毎夜の所在分
 らぬに、先まじ、清の歌の聲に
 惹いて、此かを離れねば意地
 だ。初瀬に限り、思案をたず
 るまじ。油斷しが燃え尽きあ
 草の根を分けても探し出さぬ
 らない、それでも、行方知れ
 ぬ。無念ながら、腹を切つて
 土の面皮を立てねばならぬ。
 助方、健門は意地に經む大事
 戸に立つ身とぞつた。

石
 炭
 各種
 西崎商
 京城大平通二丁目
 電話七三二

「はてな、何處へ行かれたかな、
建氣には云上て居てさすがは左
儀、能く仕へたに身を成したのであ
らうか」と心の中に不審する。
さうして四邊を見廻すと、そこ
に黒髪と遺書との置いてあるのに
目が付いた。
はつと思つて取り上げ見ると、
火の髪を惜氣も無く押元から切つ
て、燃ゆるような緋の打袖で纏つ
てある、その髪の手の一筋にも、
深い恨みの籠るのを思ひ遣られる
天には遺書の手を切る。
文書の上面に我れた初瀬の心は
十分に同情する體がある、長の年
國鳴鳴時社草堂(武門)

千本日報俳壇

新酒

船に仕て縁で夫婦や今年酒虎
船客と新酒買ふ島の小店
神祕に其酒好し今年酒虎
入替す子の春に南の新酒虎

夜寒

著し物振に夜寒のワツ哉
遠火事に鐘鐘と寺の夜寒哉

霧

樓間に下駄鳴く見え霧の中
船人が船呼ふ霧の汀かな
安東縣の灯が睡りて夜霧哉

高松

森に續く高松畑や小島細虎
刈り懸す山餅畑や小島細虎

[illegible]

金
門
食
 屋

卓威 電話二七五九
 本町

に就いて教はつて置く必要があり
 ます。強いて強い石炭酸を皮膚に附
 ると、腐が廣がりたり又は肉内に
 吸収されたり中毒を起します。です
 から其時にはアルコール又は五十
 度の重曹水で手洗ひ拭き磨るの
 べし、石炭酸が眼に入つたなら油を
 注入すると油が石炭酸を吸取つて
 仕舞ひます。銅中をさつて銅は
 て居る銅の鐵で煮たものを食した

新年詞壇募集
 漢詩 海邊松 戊午年
 短歌 海邊松 (一首以上)
 俳句 陽初 一人五句以上
 (注意) 締切二月十五日
 紙半紙年報社編輯局
 調製係に宛て持稿の事


池 林 洞 水洞 水柱 洞
 講評
 印一百三十近は具想じより前に百を十七に打たに數目の得あり
 内十四目付黒十三枚安振り普通の如く印に覗く方
 四十五は押さる前に六十五に一撃を加ふべし八十九

年中あらゆる人
間の油斷をのみ
覷ふてゐる、而
も今は拙者の最
も得意の時候だ
から、ドシ／＼
肺炎や窒扶斯の
鞭を諍て苦しま
てやる、其中酷
く侮る奴は容赦
なく殺してしま


然しハカリ印の
フリン丸は拙
者唯一の強敵で
ある、拙者が如
何に暴力を振ふ
ても忽ち撃退さ
れて了ふ。
實にハカリ印の
フリン丸には
流石の拙者も兜

を脱がざるを得
ないのである。

本舖 大阪
金銭 參天堂藥房



此はかり印
に辨注意を
名ふ



大正七年

國民日報

定價 五拾錢 郵稅 八錢

記

三日本郵船出帆

相模丸	十一月十一日	正午出
高砂丸	十二月十二日	正午出
三河丸	十二月廿一日	正午出
仁川丸	十二月廿一日	正午出

○大連行、釜山島行
○神戶行、橫濱行

尼崎汽船出帆

群山丸	十一月十一日	午後四時出
吉富丸	十一月十八日	午後四時出
大有丸	十二月十一日	午後四時出
神代丸	十二月十八日	午後四時出
○即期發行	十二月二十五日	午後四時出
○印後發行	一月二日	午後四時出

電仁川五十九番 萬杉國酒部

朝鮮郵船出帆

本州丸	十一月九日	午後三時出
釜山丸	十一月十六日	午後三時出
元山丸	十一月二十三日	午後三時出
仁川丸	十二月一日	午後三時出
水海丸	十二月八日	午後三時出

電仁川五十九番 萬杉國酒部

[illegible][illegible]

1990